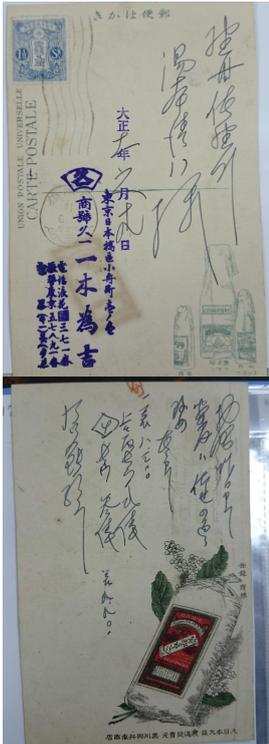


「新與からし本舗」黒川與兵衛商店

「新與からし本舗」合名会社黒川與兵衛商店は、尼崎市潮江字深田2番地（のち元浜町5丁目81-2）に製造拠点（神埼工場）を持つ香辛料を扱うお店でした。大正11年の絵葉書には、表面に「牛印サンシヨ」「唐子印カラシ」「牛印コシヨ」、裏面には「新與からし（新与からし）」のイラストが見られます。からしの赤ラベルに描かれている文字をよく見てみると、「DAINIPPON TENMA OSAKA ICHINOKAWA」とあります。さらに別の絵葉書には、「青粉 うどん粉 製造所」「乾物商」と記され、布袋様のお腹には「瓶詰 唐子印からし コシヨ 山椒粉」と書かれています。天満市之側は旧天満市場があった場所で、昭和初期には道の両側に70~80軒もの乾物問屋が並んでいました。天満青果市場は、昭和6年に中央市場ができるまでは、日本最大の規模でした。天満市場の一筋北の通りにあった市之側の混雑ぶりも相当だったことでしょう。



尼崎市立地域研究史料館

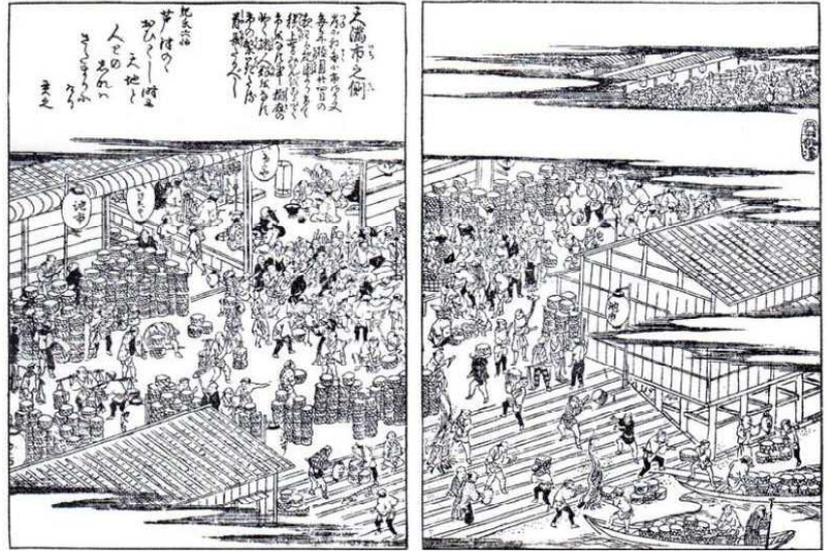


早稲田大学古典籍総合データベース



図：青果市場は大川に張り出す形で発展しました。旧市場だった通り（市之側）には、跡地に店が連なりました。

右絵図：天満市場 市之側の賑わう様子
(摂津名所図会)



右写真：大正3年の市之側
(大阪府写真帖)



国会図書館デジタルコレクションより転載

昭和23年戦災で焼失した黒川与兵衛商店の神崎工場も同年に再建され、「月美人印のカレー粉」の製造を再開しています。昭和24年、日本カレー振興会が農林省を通して、香辛料の放出をGHQに申請しました。新与は98Kg申請とあります。昭和34年5月現在関西カレー工業協同組合の名簿には、商品「月美人」会社名「(合)黒川与兵衛商店」代表者「黒川与兵衛」住所「大阪市北区菅原町100」(当時の市之側の住居表示)と記されています。

昭和の時代が幕を閉じると共に、黒川与兵衛商店もこの世からひっそりと姿を消すこととなりました。からし漬けを作る年配の方の中には、「他のからし粉だと風味が変わってしまう」と悲しむお客さんもいたようです。天下の台所・大阪の食の屋台骨として一世を風靡した天満市場の賑わいも夢の跡、今は僅かに石碑に名残をとどめるだけです。時々刻々、時の流れと共に、生まれてくるものあり、消えゆくものあります。そして、私たちもまたその例外ではありません。



戦時下の婦人雑誌広告(まちこの香箱より)



新与からしの缶



ホーロー看板

参考資料 「カレー産業の資料編」河野 善福 戦時下の婦人雑誌広告(まちこの香箱より)

ホーロー看板「新与からし」閑話休題～荷風○さんの日記～ 「月美人印コシヨ」瑠璃看板探検隊HP (つちのこ)